

極楽 と 修行

de JA1RIZ

しばらくは電車通勤をしている。満員の通勤電車はコリゴリなので特に混む区間は座席指定の電車に乗ることにしている。だから、乗車駅(乗換)メイン駅から終点(乗換)目的駅、と2回乗り換えることになるが仕方がない。

普通区間でも何とか座って過ごしたいので、始発駅で待ち、ひと列車やり過ごしてから、最前列か2列目に並んで席を確保するのだ。

でもこれで安堵してはいられない。隣(片側または両側)に着席する人によって、居心地が良い場合もあり又悪い場合もあるからだ。

大きな理由は、座る人によりその様態は千差万別だからだ。大別すれば、上々の部類は謙虚の心でしとやか且つ静かな人、地獄になるのは自分の席以上に肩幅を広げ足を広げ他人の席まで越権してくる人、酒や耐え難い口臭やその他の匂いを放つ人たちが座ってしまったときである。中には延々と携帯電話する人や本格的食事をする人もいる。前述のような上客のときは、とても心安らかになり極楽気分でコックリと居眠りも出てくることとなる。明るく・清楚で・感じのよい女性の方などが座ることなどあれば、盆と正月がいつぺんに到来したようで1日が楽しくなるとういうものである。…がこんなことはほとんど無しである。hi

しかし、後者の場合は、みずからの体は小さくちじこめて、悪臭などに耐え忍ぶことになり『地獄!』そのものに変貌するのである。こういう時は腹を立ててもストレスが溜まるばかりなので、「修行!修行!」と自らにいい聞かせている。20年前はこういう電車に乗っていてもそれ程の『修行』と思った事はほとんどなかったと思うが、こんな事を考えるようになったのは歳のせいかもしれない?

…自分は他人にこのような『修行』を与える様になってはいかん、となるべく肩肘張らず、股をむげに開かず、また口臭公害を与えないよう必ずマスクをして、携帯電話は使わず、そして静かに座るように心がけている。それでも自分が思っているだけで、他人はうさんくさい目で見ているかもである。

電車の座席は、どちらかと言うと『夏用の席』といえる。何故なら、夏季の薄着のときはそれ程ちじこまらなくとも良いが、だんだん厚着となる季節が来ると窮屈この上ない状態になってしまう。せめて春・秋の中間期にはゆったり座れるような設計にして欲しいものだ。

ただ、今やエネルギー節約の時代であり、省エネ・省エネが叫ばれているところでもあります。そんな悠長なことはいっておれん、程々のガマンは社会の要請である、と云われてしまえば返す言葉はありません。

なつかしい小沢昭一さんの言葉を借りれば『ジッとガマンのココロだぁー!』ということか…。

(完)